

100年以上の伝統ある技術と発想力で 石とコンクリートの未来を拓くエキスパート

事業内容

景観用、建築用などの各種石材の販売、コンクリート製品の製造・販売を主業務とする、1904（明治37）年創業の歴史ある会社。伝統に裏打ちされた確かな技術力と豊富な実績を生かして、新商品の開発にも積極的。中でも、砕いた石材をコンクリートに混ぜて発色させる特殊コンクリート「パウダークリート」は、自然石に限りなく近い風合いを出せるものとして高い評価を得ている。

特許登録番号と内容

商標登録第 4766863 号	パウダークリート POWDER CRETE
-----------------	-----------------------

（2012 年 3 月現在）

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



専務取締役
飯島健司さん

日本伝統の石の技術と豊富な知識で 重要文化財の修復に貢献

茨城県真壁郡産の天然石の採石に端を発する、飯島石材株式会社。石材とコンクリートの2つの事業を柱に歴史を重ね、2003 年に創業 100 周年を迎えた。

石材部門では、公園の石積みや、住宅の内外装用に国内産の天然石材を幅広く提供。「墓石に使われるのは原石のおよそ5割。残りの部分を活用することで、良質で安価な石材を提供しています」と、飯島健司専務取締役は語る。また、日本伝統の石材の施工方法を生かしつつ、新たな技術や知識を取り入れることで、石材構造物の改修や修復工事にも貢献。最近では、赤坂・日枝神社の外周擁壁改修工事や、北海道最古の石橋である創成橋の架け替え工事、重要文化財の日本橋の舗装改修工事に携わった。「石橋の施工は、江戸時代なら、担当技術者が軍事機密を守るために殺されてしまうほどの特殊な技術。修復工事にもセメントは使いません。また、天然石を金槌やのみで割り、自然な風合いを残したまま加工する技術は、今でも職人にしかできない伝統の技です」と、飯島専務。残念ながら、風雅な石材を使う場所自体が減っている昨今、そうした伝統も石材も知らない世代が増えている。そこで飯島専務自ら講師となり、設計事務所などの若手を集めて、守るべき技術を伝承することにも力を入れている。

石の風合いを持つ新しいコンクリート 「パウダークリート」を開発

コンクリート部門では、古くから東京都水道局仕様の製品需要に应运えてきた。現在、地中に埋設されている消火栓用ブロックにも、同社のレジンコンクリートが採用されている。レジンコンクリートとは、セメントの代わりに樹脂を用いた、通常の3～4 倍の強度を誇る特殊な製品。その分、薄く軽くできることから、施工の効率化をはかれるのが魅力だ。同社では今年、その製造拠点を中国から茨城の自社工場へと移行。「これまで以上に顧客のニーズに応えることができます」と、飯島専務は、同事業の成長に期待を寄せる。

一方、2003 年には、天然石の風合いを持つ新しいコンクリート製品「パウダークリート」を開発。「顔料を一切使わず、石を砕いた天然骨材と、白セメントを配合することで、天然石に近い色調のコンクリートを作り出すことに成功しました。自然石にはない色調も出せます」と、飯島専務。もともと、ヨーロッパには、石灰岩と白セメントを混ぜて作った美しいコンクリートがあった。そこから、「日本で作るなら大理石か」と、ヒントを得て開発に着手。専門家の技術供与を受けながら試験を重ね、2 年を掛けて商品化にこぎつけた。開発者である飯島専務と、協力プレーンとで、「パウダークリート」と命名し、商標登録もした。技術自体は、物を

COMPANY DATA

所在地：東京都中野区中央 4-42-10 電話番号：03-3383-1401
URL：http://www.ijima-is.co.jp/ 創業：1904 年 設立：1949 年
資本金：2,800 万円 売上高：6 億円（2011 年度 5 月期）
従業員数：26 人（2012 年 3 月現在）



セメントに樹脂・金属繊維を配合した超高強度のコンクリート製品「ダクトル」。超高強度・高耐久性の特徴を活かして、顧客ごとのニーズに応える製品を設計・製造。東京大学駒場キャンパス内の意匠性の高いベンチにも採用された

見れば真似ができてしまうものだという。実際、同社がパウダークリートの施工方法を教えた会社が、模倣品を作り出すケースもある。だが、「ライバルが増えても、私たちには他社に負けないさまざまな色を生み出す配合の知識や、用途に最も適した材料（石材）を日本中から選び、供給する自信がありますから」と、飯島専務は胸を張る。創業以来、積み重ねて来た石屋としての歴史とノウハウが同社の強みであり、簡単には真似できないというわけだ。

意匠と職人のせめぎ合いもコントロール 今後もコンクリートの可能性を追求

大手セメント会社のサプライセンシーとして、超高強度繊維コンクリート「ダクトル」の設計・製造も行っている同社。「ダクトル」は、抜群の強度と耐久性を生かすことで、薄くも、曲げることもできる特殊なコンクリ



天然骨材発色による、着色コンクリート製品「パウダークリート」。御影石や大理石の粉・砕石などを配合することで生まれる色調は、どれもナチュラルなアースカラー。早稲田大学キャンパスや、三重県鳥羽駅前のプロムナードなどに採用され、いずれも好評だ



赤坂・日枝神社の壁石・階段の改修工事

ート。その特性から意匠性の高い建築物に採用されることが多い。「意匠のレベルが高いと、製品の難易度は上がりますから、技術の人間からすれば厄介なこと。両者の間にたって調整をはかりながら、コンクリートの技術をさらに高めて、後進に伝えていくのも私の役割だと思っています」と、飯島専務。

他にも、英国製の装飾コンクリート製品「ハドストーン」や、ドイツ製のポリマーコンクリートの景観排水側溝システム「ACO ドレイン」も扱っており、その多彩なサービス内容と技術力で、お客さまに適した石材と建材のベストソリューションを提供している。「利益を追求するより、ちょっとした気の利いた目線でお客さまのニーズを汲んで、ビジネスにしていけたらいいですね」と語る飯島専務。その熱い指導のもと、ますます活躍の場を広げていく同社の今後が楽しみだ。

知的財産活用のポイント

優れた技術は共有。市場が広がることで さらなるレベルアップを目指す

同社がコンサルタントとしてノウハウを供与した際には、その技術が他で使われることを見越した代金を頂戴している。独自の技術も、多くの人が使うことで市場が拡大するならばそれでいい、という考え方だ。実際、製品を見た人が、「どこに頼めばいいのか？」となったときに、エキスパートであ

る飯島石材に声が掛かる確率が高い。「ライバルたちからも、難しいことは飯島に聞こう、と、相談されるようになるのが理想です。優れた技術はどんどん教えたらいい。その分、教えてもらえることもありますから」と、業界全体でレベルを上げていくことを飯島専務は目指している。